令和7年度 大田区立南蒲小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和8年3月6日

【学校規模】 児童数:387名(3/6現在)　学級数:15学級　教員数:28名
【目指す学校像】
○ 児童にとって、安心して自分を表現でき、目標をもってがんばる過程が認められ、自尊感情および自己肯定感が育まれる学校
○ 保護者にとって、安心して通わせることができ、こどもたちのために協力したいと思える学校
○ 地域にとって、親しみと誇りを感じる存在で、学校の活動を応援・支援したいと思える学校
○ 教職員にとって、改善に向けた取組の成果や学校組織の一員としての貢献を実感できる学校
【本校の主な特色】
○ たてわり班による異学年交流活動（全学年）
○ 外部講師を招いたキャリア教育（4～6年）　令和7年度キャリア教育モデル校（令和5年度より継続）
○ 特別活動の要となる学級活動についての校内研究（指導力向上）
○ 総合的な学習の時間を課題発見、探求できるよう「南究タイム（南蒲探究タイム）」と命名
○ 朝学習における持久走「なんぽーラン」の取組（全学年）　令和6年度大田区小学生駅伝大会5年連続優勝（5.6年代表児童）
○ 特別支援教室（サポートルーム）拠点校、特別支援学級（5組）設置校

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
									評価	人数	コメント
個別目標１ 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。 ○区独自教科「おおたの未来づくり」（今年度より実施） →5年…地域創生 「私たちの町を盛り上げよう！」 6年…ものづくり 「私たちの校章　エゴマの葉」 ○ものづくり ○小中学校理科授業向上研修 →3年以上の理科授業において、担任が授業公開をし、教育委員会から指導を受ける	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	児童アンケートで「タブレットを使って学習や家庭学習をすることができる。」と回答した児童の割合。	4: 80%以上	4	・今年度から始まった「おおたの未来づくり」では、特に５年生が地域と連携しながらよりよいまちづくりの視点で清掃活動を充実させた。 ・理科指導専門員に授業観察及び教具や設備点検を学期に１回程度していただき、指導助言を受けた。 ・特別活動を要としたキャリア教育の充実を図り、４年生以上は外部講師を招いた授業を行った。 ・６年生の「おおたの未来づくり」の取組内容を見直し、連携できる企業を探していく。 ・タブレットの使い方や情報モラル教育について、各学年で目標が達成できるよう年間計画を見直す。	A	5	・タブレット端末を活用した授業を行っていて、改善策などが出ているようであるが、対機械ではなく①、②の項目についての取組にもう少し目を向けるようにしていただきたい。 ・こどもたちのタブレット使用で落ちこぼれがないように。 ・ICTの活用については、各学年でバラツキがでないようにスキルアップと維持を。 ・実際にその場にいない者が評価することは大変難しく、評価することにも責任を感じています。 ・保護者や児童のアンケートを参考に評価すると、半数が「そう思う」との回答なのでよいと思います。ただ、タブレットを使った学習が、親と子で差が見られるところが面白いと感じた。 ・学年ごとに様々な体験学習が充実して良いと思う。 ・町探検で来館していただいたときの児童の様子が、積極的に児童館について知ろうとする姿が見られました。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。 ○キャリア教育 →2年…町探検 3年…町探検、店・施設見学 4年…ドリームマップ 5年…みらいエール、(夢の教室) 6年…租税教室、キャリアカウンセリング、お仕事インタビュー、 ものづくり体験 ○移動教室（2泊3日） →5年…伊豆高原移動教室　6年…とうぶ移動教室 ○学校行事（主な行事） →6/27南浦フェスティバル（児童が企画した出店） 5/17運動会　11/21.22学習発表会 ○小中学校連合行事（主な行事） →小学生駅伝大会、連合書写展 ○自己肯定感の醸成 →児童が自他を認め合い、互いのよさを知るための学級活動を中心とした話し合い活動を取り入れる	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		3: 70%以上80%未満			B	4	
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。 ○タブレット端末を活用した授業等による →教員による電子黒板を活用した授業や児童一人一台端末を活用した授業の設定 ○情報活用能力の育成 →タイピングアプリを活用したキーボード入力技能、 写真や動画を撮影し自己の課題に問い入れ編集する技術、 インターネット検索など ○情報モラル教育 →学年に応じた情報モラル教育を授業時間内に設置	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		2: 60%以上70%未満			C	0	
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
						1: 60%未満			D	0	
個別目標２ 世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。 ○外国語活動・外国語教育指導員（ALT）の配置 →1.2年生…年間25時間（担任+ALT） 3.4年生…年間35時間（担任+ALT） 5.6年生…年間70時間（外国語教育指導員＋ALT） 英語カフェを各学年年間9時間実施（昼休み）	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	児童アンケートで、外国語活動を通して、「日本や外国の文化や伝統について学び、違いや考えを大切にすることができる」と回答した児童の割合。	4: 70%以上	4	・１．２年生の外国語活動の時間が昨年度よりも増えたことで、外国語に触れる機会を多く設定することができた。 ・12月の校内人権作品展で異学年の作品を見合うことで、他者の価値観を知り、理解し合う場の設定をすることができた。 ・外国語教育指導員の勤務形態の都合上、英語カフェの実施回数が少なかったことを受け、実施時間を見直し、年間計画を立案する。 ・児童発信のボランティア活動が企画できるよう、児童会活動の充実を図る。	A	2	・外国語教育は、現代社会では重要な部分として取り組みをされていることは、評価されるべき点である。②、③については、今後の方針の推移を見守りたい。 ・児童の外国語に対する興味を、学内だけでなく、外で使える環境などがあると、もっと生かされるのではないかと思う。 ・ALTの時間が増え、ALTと交流する機会が多くなった。英語が身近になるように期待したい。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。 ○人権教育 →12月に校内人権作品展を実施するとともに道徳の授業等において学年に応じた人権に関する授業を行う ○地域社会の歴史、伝統・文化などの体験学習 →2年…町探検、図書館見学 3年…町探検、店・施設見学、 笑顔と学びの体験活動プロジェクト 4年…水道キャラバン、ドリームマップ 5年…お米の学校　おおたの未来づくり 6年…ものづくり体験　キャリア教育 ○社会科副読本「わたしたちの大田・東京」の活用 →社会科（3.4年）の授業において活用	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4		3: 60%以上70%未満			B	7	
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。 ○SDGs →家庭科、社会科、南究タイムなどの授業において、意味や17の目標で取り組めることについて考える ○ボランティア活動 →児童会において、活動の有無や内容について話し合う 6年生が卒業前に清掃活動を実施予定	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		2: 50%以上60%未満			C	0	
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
						1: 50%未満			D	0	
個別目標３ 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。 ○道徳授業地区公開講座→10/11 ○生命尊重週間 →命の大切さについて学ぶ授業を行う 【令和7年度　生活指導重点目標】 ・「あいさつをしっかりしよう」 ・「廊下は右側を歩こう」 ・「名前に“さん”をつけて呼ぼう」 ○読書活動 →図書ボランティアどんぐりによる土曜お話会 学級本棚の設置、学級文庫の配布 ○音楽鑑賞教室→7/3（5年）	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	児童アンケートで「あいさつをしている」と回答した児童の割合。	4: 80%以上	4	・算数では、１年生からクラスを分割した習熟度別少人数指導を行い、個に応じた学習支援体制をつくった。 ・学校運営協議会で決定した読書活動の充実を図るための支援として、玄関に本棚を設置し、いつでも読書ができる環境を整えた。 ・小中一貫の連携授業や、保幼小の連携を図った活動の取組を設定した。 ・学習理解において、算数補習以外にも放課後に学習の補充をする時間を設定する。 ・朝学習に取り入れているなんぽーランの実施回数が安定するよう日程調整を行う。	A	4	・今の環境の中で、あいさつに重点を置いていることは評価される。あいさつはこどもだけでなく、大人にも教育をしていただきたい課題の一つであると感じています。他の②、③については、学校側の今までの取組を、さらに習熟度を上げていただきたい。④については、現時点では連携というより協力、情報提供が主に感じますが、改善点があれば見直しも必要では。 ・駅伝について、先生方も選手もプレッシャーがあったと思いますが、よく頑張ったと思います。「常勝南蒲」の復活をめざして、リスタートですね。 ・あいさつを返してくれる児童が増えたように感じます。 ・あいさつ、ナンポーラン、朝ごはんのアンケートで、児童の評価がとても高いので、とてもよいと思う。 ・中学生の絵本の読み聞かせで、本を好きになってくれるとうれしい。読み聞かせのときの児童のあいさつは良くできていた。 ・校外でのあいさつが、更に向上することを期待します。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。 ○大田区学習効果測定→4/25（4～6年） ○学習カウンセリング →夏季休業中の個人面談において、学習効果測定の結果や日頃の学習状況について保護者に伝える ○習熟度別少人数指導 →算数において学年を習熟度別クラスに編成し、授業を行う ○補習教室（算数） →1年…毎週火曜　2年…毎週金曜 3.5年…隔週火曜　4.6年…隔週金曜 ○タブレット端末等を活用した家庭学習 →各学年の実態に応じて実施	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4		3: 70%以上80%未満			B	5	
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。 ○体力調査結果の分析による体育授業改善、楽しい運動習慣の確立 →全学年で統一したなんぽ運動、整理体操 体育の模範授業を参観、共有し、授業改善を行う ○小学生駅伝大会 →週1回朝学習の時間に5分間走を実施 大田区小学生駅伝大会5年連続優勝（5.6年生選抜） ○健康教育 →「早寝・早起き・朝ご飯」習慣の取組（5月、10月） 学活や保健において健康に関する授業を行う ○食育指導 →学活や生活科において食に関する授業を行う	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3		2: 60%以上70%未満			C	0	
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。 ○保幼小連携 →保育園、幼稚園との交流授業 就学前の引継ぎ ○1年学級支援活動 →1年学級への支援員の配置 給食ボランティアによる給食準備等の補助 ○保幼小連携運動遊び指導者研修会 →低学年担任が夏季休業中に研修に参加 ○小中一貫教育 →連携校である東蒲中、東蒲小との授業参観 生活状況調査（5.6年、中学1～3年） 進学前の引継ぎ	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3							
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満			D	0	

個別目標４ 学校力・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。 〇ICTを活用した授業の充実 →ICT支援員を活用し、タブレット端末を利用した授業を実施 夏季休業中において、ICT研修を実施 〇教科担任制 →全学年で実施 〇専科配置 外国語…5.6年　音楽…1～6年　図工…2～6年 家庭科…5.6年　少人数算数…1～6年 〇校内研究を柱とした組織的な授業改善 →『よりよい学校生活を目指し、合意形成を図る児童の育成 ～互いの意見のよさを認め合う話し合い活動を通して～』 【学級活動の取組】 ・学校・家庭・児童の意見を踏まえ、学級目標を決定 ・毎月「知・徳・体」についての目標を児童が設定 ・学級や学校の課題を自分たちで見付け、考えを話し合う 〇授業力向上に向けた研修の充実 →授業力や指導力の向上を図るため、月１回OJT研修を実施	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童アンケートで「目標やめあてをもって取り組んでいる」と回答した児童の割合。	4:70%以上 3:60%以上70%未満 2:50%以上60%未満 1:50%未満	4	・１年生から教科担任制を取り入れることで、学年全体で児童理解にを図ることができた。 ・他校等で研修した内容を夕会や校務端末などで共有した。 ・各学年で学期に１回以上、ホームページを更新し、学校の情報を公開した。 ・教員の働き方改革として、夏季休業ににおける休暇の取得を推進した。 ・会議の内容を精選し、校務端末を活用して職員全体に周知する。 ・教員支援員の人材不足を解消するため、学校運営協議会に議題として発信していく。	A B C D	4 5 0 0	・働き方改革が進む中、授業力の向上並びに、質の高い教育、学校の組織的な運営力の向上について、個々の考え方がある中で、教師の方々が少しでも同じ方向を向いて言っていただくことを願います。 ・AIの利用に関するルールや取組が必要かと思います。 ・7年度の授業改善推進プランでは、各科の現状がよく分かりました。 ・「先生はわかりやすい授業をしている」という児童評価が70%を超えているので、先生方の努力が思われます。その結果が、自己評価数値の高さに現れているのだろうと思います。 ・tetoruで、保護者に教育活動等を発信することができ、良かったと思う。 ・先生方の日々の努力を感じます。児童館に来館する児童が落ち着いています。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。 〇学校の情報発信 →ホームページ　学校だより（学級だより） classroom　まなびポケット　学校公開 〇職層に応じた校務分掌やOJT →次年度への引継ぎや職層を考慮した人事配置 主任教諭や若手教諭が中心となって運営するOJT研修	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。 〇教員支援員の配置 →年間で固定した人材を配置することで校内事情を把握して支援 にあたることができる 〇ICTを活用した事務の効率化 →会議資料を電子化するとともに、会議時間を縮小し、日頃から 情報共有するシステムを構築 職員が使用・持ち帰ることができるタブレット端末が2台、 校務端末と同等の機能がある持ち帰り端末が学校に3台配備 〇夏季休暇等取得推進日	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標５ 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。 〇知的障害特別支援学級→5組（R4より設置） 〇通級指導学級 →弱視…東調布第三学校 難聴、言語障害…北糀谷小学校 〇特別支援教室→サポートルーム（拠点校） 〇特別支援教育に関する研修 →年度当初に5組、サポートルームについての機能を周知すると ともに、夏季休業中に特別支援教育についての研修を実施し、 より理解を深める 〇特別支援教室と通常の学級との交流 →5組の児童は各学級に所属し、朝の会や一部授業、行事等に	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケートで「困ったときや必要に応じて、相談できる大人が学校にいる」と回答した児童の割合。	4:70%以上 3:60%以上70%未満 2:50%以上60%未満 1:50%未満	4	・特別支援学級との定期的な交流や共同学習を日常的に実施することができた。 ・毎週生活指導夕会を実施し、児童の情報共有を行うとともに、気になる児童の様子を記録し、経過観察を行った。 ・教室で過ごすことができない児童について、保健室や相談室等でオンライン学習ができるよう環境を整えた。 ・サポートルームの職員室を通常学級、特別支援学級と同じ部屋にすることで、一層の連携が図れるようにする。	A B C D	6 3 0 0	・多種多様な生活スタイルが構築された現代社会において、児童一人一人に合わせた環境はなかなか大変であると思います。保護者への理解を得るために、更なる啓発をしていただきたい。 ・校内で見かける何気ない交流（声かけなど）が、５組の児童と通常学級の児童の間に定着しているように感じる。 ・児童が心配事や困ったときに相談できる環境があることは心強いと思う。 ・児童の悩みに寄り添って、相談できる体制を作っていくことが大切である。 ・児童館でも自然に交流しています。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。 〇学級集団調査WebQU →児童やクラスについての状況を把握するための調査を年2回 実施し、学級経営の改善を図る 〇いじめの未然教育・早期発見・早期対応 →児童アンケート（各学期に1回） 日頃の担任との関係づくり 副担任等、誰にでも相談してよいというアナウンス 開かれた保健室、校長室 〇警察との連携 →必要に応じて、すぐに連携を図ることができる体制作り 〇校内の居場所づくり・登校支援員 →教室で過ごすことができない児童に対する居場所の確保 （相談室や保健室等） 安心できる居場所づくりと学級に戻ることができるようにする 支援（場合によっては外部との連携） 一人で登校できない児童に対する登校支援員の配置 〇ケース会議 →必要に応じて、会議を適宜設置	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。 〇スクールカウンセラーによる支援 →週１回の定期訪問 児童、保護者へのカウンセリング カウンセラーによる全員面談（５年生） 〇子家セン・児相との連携 →必要に応じて、すぐに連携を図ることができる体制づくり 〇外国人等への教育 →日本語指導教員の要請 外国語に対応した資料の提供 〇ヤングケアラーやLGBTQなど多様な悩みのある児童の支援 →道徳等授業において多様性についての理解啓発授業を行う 担任が家庭環境や児童の様子を把握し、学校全体で共有、 理解を図る	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
個別目標６ 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。 〇地域の拠点としての特色ある学校施設の整備 →トイレの完全洋式化 〇学校図書館の充実→図書の整備 〇校内防犯体制の充実→避難訓練等において、職員の行動を確認 〇学校給食における食物アレルギー対応 →年度当初にアレルギー対応児童を共有、給食の配膳を別にする	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケートで「避難訓練では、先生の話を聞き、安全な行動をとることを意識している」と回答した児童の割合。	4:80%以上 3:70%以上80%未満 2:60%以上70%未満 1:60%未満	4	・毎月１回施設の安全点検を行い、学習環境が整っているか点検をした。 ・毎回の避難訓練では、どのような内容で避難しているのか、どのように避難するのかを確認し、命を守る行動について考えて訓練ができるようにした。 ・避難訓練の二次避難では、近くの公園以外にも避難することがあることを想定し、万が一に備え、必要な機関と連携を図る。	A B C D	6 3 0 0	・地域の特性を生かし、防災・防犯・交通安全などの対応をされていると思う。限られた中での教育環境の整備は大変苦労されていると思います。 ・児童の安全に対する意識が高いのでよいと思う。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。 〇防犯教育・防災教育 →月に1回、避難訓練を実施（地震、火災、引渡し、一斉下校、 不審者、Jアラート、二次避難、津波等） 〇交通安全巡回指導 →月に1回学級指導 登下校の歩き方、遊び方、危険な場所の確認等	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
個別目標７ 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。 〇令和6年度よりコミュニティ・スクールを設置 →学校運営協議会の設置 〇地域との連携 →新教科「おおたの未来づくり」における連携 2.3年町探検 登下校見守りボランティア 〇学校施設開放 →3か月に1度、施設開放会議を設置	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケートで「地域や保護者の協力により、安全に登下校ができるようになっている」と回答した保護者の割合	4:80%以上 3:70%以上80%未満 2:60%以上70%未満 1:60%未満	4	・PTAの方々の協力により、行事の運営をスムーズに行うことができた。 ・スクールサポートのおかげで、学習活動や学校生活の支援が充実した。 ・コミュニティ・スクール　カレンダーを作成し、学校・PTA・学童・児童館・地域の行事や活動が年間を通して確認できるようにした。 ・PTAや地域の方の見守りにより、児童が安全な登下校をすることができた。 ・スクールサポートの人材不足について、早急に解決する必要があり、学校運営協議会の議題としている。	A B C D	3 6 0 0	・CSを通じて更なる連携を図り、こどもたちの育成にみんなで協力していくこと。担当者会議もあってもよいかもと思います。 ・情報発信について、学校ホームページ更新に合わせて、tetoruにおいても更新通知があると、より多くの人に見てもらえると思います。 ・PTA活動にご協力いただき、ありがとうございます。 ・町会行事等で、あまり児童の参加がないので、もう少し地域に児童が出てきてくれたらと思います。 ・教育活動を地域や保護者に、よく発信していることが伺える。 ・児童館の行事へも関心をもっていただき、感謝しております。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。 〇児童誘導員の配置 →登下校、遠足、社会科見学、移動教室等の見守り、誘導 〇地域の見守り →登下校見守りボランティア 〇通学路における安全点検 →年度当初、担任による児童の通学路確認 年2回、巡回による地域の安全点検	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。 〇PTAとの連携 →PTA行事における教員への参加呼びかけ 行事におけるPTAの協力 〇保護者対象の講演会 →道徳授業地区公開講座10/11 体育・健康教育授業地区公開講座2/7	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							